

**2021年度 高等学院同窓会学術研究奨励金  
研究成果報告書概要（WEB 公開用）**

高等学院長  
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [ 仁井 泰然 ]

学年・組・番号 [ 3年 E組 17番 ]

研究課題： 現代華僑学校の在り方と華僑コミュニティとの関りに関する考察  
一横濱中華學院を中心に

(英文) A study on the Nature of Modern Overseas Chinese schools and Their  
Relationship with Overseas Chinese Communities  
Focusing on the Yokohama Overseas Chinese school

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について200～400字で記入してください)

日本国内において、台湾系中華学校は大阪・横浜・東京の三校が存在する。その中でも、横浜中華學院は、すぐそばに大陸系中華学校の横浜山手中華学校が位置し、東京には同じ台湾系の東京中華学校が存在する。その条件下で、横浜中華學院はいかに横浜中華街の中に存在し続けられているのか、その特殊な地理的条件から現地コミュニティとの関りという観点をもって、考察を進めた。

具体的には、まず在日華僑学校の歴史について概観し、そこから分かる各コミュニティでの学校の立ち位置を踏まえ、横浜のケースについて、学校関係者へのインタビューを行い、考察を行った。このように、本研究では地理的特徴が、学校教育・運営、または地域コミュニティとどのような関係を築いているかについて明らかにすることを目的とした。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について200～400字で記入してください)

戦後、国際的な立ち位置が上であり、かつ人口の多い大陸系の学校が同じ駅に存在するといった条件の中、横濱中華學院が中華街の中に存在し続けられたこと、そして大陸出身か台湾出身かに関わらず生徒が入学したこと、それらの背景には、政治的思想を問わない学校運営とそれらを支える地域コミュニティとの関係性の中に学校が存在するからであった。横浜中華學院は、国際化の流れの中で、確実にそのカリキュラムを改変し生徒数を確保、維持してきた。それも発展の大きな要因であるのは確かである。しかし、同時に教育の根幹にある民族学校的性格は今も脈々と受け継がれ、地域コミュニティとの関りの中で、学校は価値を発揮した。これらの要素がこれまでの発展の根幹を担ってきたという結論に至った。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 仁井 泰然

研究分担者

担当教諭 柿沼 亮介

(受給額：25000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名がWEB ページ上で公開されることに同意します

(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



以上